

熊さん 「御隠居、105ミリだと、はっきりした範囲が読めませんねえ。 だいたい3メートルの、ごく狭い幅しかピントは合わねえようですわね」。

御隠居 「そのとおりだ。 つまり、長い玉になるほど被写界深度は浅くなる。 だから、8ページにあるように、『望遠レンズのほうがバックの処理はしやすくなる』ってえわけだ」。

熊さん 「なるほどねえ」。

御隠居 「どうだい、熊さん。 レンズの被写界深度目盛りから、被写界深度を読みとる方法は、だいたい理解できたかな？」。

熊さん 「わかりやした」。

御隠居 「じゃ、この方法の最後に、こいつの欠点を言うことにしよう。

こいつの最大の欠点はな、被写界深度を頭の中で想像できても、直接、肉眼で確認できねえ点にある。 ある程度慣れなければ、イメージのままの写真は作りにくい。 カメラに絞り込みボタンのねえ機種を使っている人は、このことに留意したほうがいいだろうな」。

熊さん

「御隠居、ちよいと前から絞り込みボタン、絞り込みボタンってえおっしゃってますが、あつしのボディーについては、どうやらレバーのようですね。 もっとも、焼き肉用じゃあござんせんがね。 ボタンやレバー……、何だか石焼きのボタン肉が食いたくなっちゃった。味噌煮もいいねえ……」。

御隠居

「やれやれ、食い意地のはっているこった。 あんまり食うと、中国のメイシヤントン(梅山豚)やトドみてえになっちゃうぞ。

……で、次は、絞り込みボタン・レバーを使う方法だな……」。

絞り込みボタン・レバーが自分カメラに付いているかどうかは、カメラの説明書を見れば、すぐわかる。 説明書を捨てたり、読まねえ人が少なくねえが、説明書は捨てねえで、必ず読みなよ。

熊さんや、おめエの父っつあんは、ちゃんととってあつただろう」。

熊さん

「へい、丁寧にビニール袋に入れて。 ……おっと、捨てねえでよかった。 御隠居から叱られるとこだった」。

御隠居

「で、絞り込みボタン・レバーを使うよいところはだな、被写界深度を直接肉眼で確認できる点にある。 絞り込むにつれてファインダーが暗くなるってえ欠点はあるけれども、直接ボケ具合を確認できるメリットは、他の方法にやあ、ねえ長所といえるだろう。 自分のカメラに絞り込みボタン・